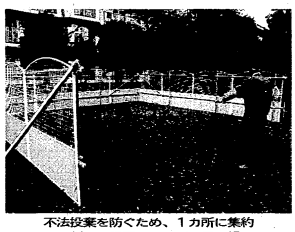
ごみ置き場1カ所に

不便でも環境重視

廃15カ所止　不法投棄防止で対策

伊勢崎・山王団地



不法投棄を防ぐため、1カ所に集約して新たに設置されたごみ置き場＝伊勢崎市山王団地

家電製品などの不法投棄が長年の懸案となっていた伊勢崎市山王団地は、対策として十五カ所だったごみ置き場を五月一日から一カ所に集約する。団地内に分散していた置き場を一元化することで管理態勢を強化するのが狙い。歯止めがかからない不法投棄を防止するため、住民が協議を重ね、従来の置き場を廃止し、一カ所とする思い切った対策に踏み切ることになった。三日には、従来の置き場にシバザクラを植栽し、環境整備を進めていく方針。

同団地は一九七五～七九年度に建てられ、県営、市営住宅に約五百世帯が暮らす。時代の経過とともに、テレビや冷蔵庫などの家電製品の不法投棄がモラルを高め、団地を美しくしよう」と、これまでのごみ置き場十五カ所を廃止、一カ所に集約することで合意した。議論の末、「住民が協議を重ね、従来の置き場を廃止し、一カ所とする思い切った対策に踏み切ることになった。三日には、従来の置き場にシバザクラを植栽し、環境整備を進めていく方針。

地域住民や行政などから指摘が相次ぐ一年前、団地の住民で作る山王団地自治会（市川耕一郎代表）が立ち上がった。議論の末、「住民が協議を重ね、従来の置き場を廃止し、一カ所とする思い切った対策に踏み切ることになった。三日には、従来の置き場にシバザクラを植栽し、環境整備を進めていく方針。

自治会では、団地内の空き地約十二平方メートルを活用し、この約五十二平方メートルをごみ置き場とした。置き場まで距離が遠くなる住民の負担を軽減するため、車で入ることができるスペースも確保した。

四月上旬に完成したチラシを各戸に配布、住民に周知した。ごみ出しが困難になる障害者や高齢者を対象とした、ごみ収集ボランティアの活動も計画している。

自治会の市川代表は「やっと一歩踏んだという思い。みんなと協力し、団地を生まれ変わらせたい」と意気込んでいる。

非常持ち出し袋用　県が市販品テスト

災害時に活用する非常用持ち出し袋について、県県民センターは市販商品の独自テスト結果を県ホームページなどで公開した。

テストした商品は、店舗で購入した二点と通信販売専用の七点の計十点。食品は缶詰のパンやはちみつなど一時的に空腹を満たすもので、賞味期限が購入時から二～五年。ペットボトル入りの水の賞味期限は、三カ月～五年と幅があった。

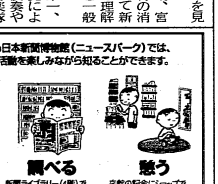
懐中電灯には予備電池が用意されておらず、携帯電話の充電やサイレンが高気圧に覆われ、平年を中心に気温が上昇し記録した。前橋地方気象台によると、県内の最高気温は前橋の二五・八度で五月下旬の暑かさ、暗林は二五度。三十日も高気圧の影響でさらに気温が上がり、行楽日和となる見込み。

前橋、館林で夏日を記録

県内は二十九日、上空に寒気が流れ込み、平年より低い気温となった。前橋と館林で夏日を記録した。

▽四月一日に開署した前橋消防署（杉本浩署長）は、管内の消防活動の拠点として新設、住民に消防への理解を深めてもらおうと一般開放した。

▽この日は大型第一二保育園児による和太鼓演奏や前橋消防音楽隊の吹奏楽コンサートなども実施。子供たちはゴルフ場のカートを改造した「ミニ消防車」の体験乗車を楽しんでいた＝写真。



▽四月一日に開署した前橋消防署（杉本浩署長）は、管内の消防活動の拠点として新設、住民に消防への理解を深めてもらおうと一般開放した。

▽宮城分署は大胡、宮城、粕川の旧三町村の消防活動を学ぶ。

訪れ、庁舎や消防車を見学した。

全国一斉定年力検定

本県初開催　8人が挑戦

団塊の世代を対象に、定年退職後の生活に必要な年金や資産運用などの知識を問うユニークな試験「定年力検定」が二十九日、初開催の本県。申請中の日本定年力検定協会を含む全国二十都市で一斉に行われた。五十～六十代の男性を中心に、全国で約三百人が挑戦した。前橋中大渡町の県公社合ビルでは八人が検定に挑んだ。

主催は規在、特定非営利活動法人（NPO法人）定年力検定協会。昨年十一月に開催された一回目の定年力検定後、問い合わせが相次ぎ、初の全国一斉検定となった。

問題は「国民年金保険料をどこに納付できない場所は」など、「五年物の新型個人向け国債の中途換金は何年経過すると可能か」といった日々を過ごすために役立つ知識を盛り、活用する能力を表す。同検定は年今回、全国で一斉開催されることになっており、次回は来年前に実施する。

本県での初実施に高橋代表は「今回は周知期間が短く、予想より受験者が少なかった。次回以降は事前の講習会を含めて多くの人に参加してほしい」と話している。

定年力は、老後に充実した日々を過ごすために、①食品や飲料水の賞味期限を点検②年金や資産運用の知識を活用する能力を表す。同検定は年今回、全国で一斉開催されることになっており、次回は来年前に実施する。

国交省

ダム現地映像を中継

薗原、相俣、藤原　利根川上流3カ所　緊急情報も提供

国土交通省利根川ダム統合管理事務所は六月一日、ダムの本流用を目指し、管理する利根川上流域の薗原（沼田市利根町）、相俣（みなかみ町相俣）、藤原（同町藤原）ダムのライブ映像をホームページ（HP）で試験公開している。ダムが稼働している映像を流すことで実情を知ってもらい、洪水、渇水対策に役立てるのが狙い。映像配信のほか、同管理事務所による現地パトロールの一時、ダムは貯水する際に問題となっていた水位も一部放流しての水位を調整しているが、こうしたダムの仕組みを調整していることを知ってもらうためでもある。

薗原など三ダムには無人の監視カメラが設置されていることから、現地映像を公開することを決めた。サイトトップの地図に示されたカメラマークをクリックすると、三ダムに設置されているカメラから現在の状況が見られる仕組み。

また、各ダムで行っているイベントや周辺の観光情報など、利根川とダムにまつわるさまざまな情報も提供している。

同管理事務所は「ダムのことを知ってもらうには、動いている姿を見てもらうのが一番。将来は放流時の警報情報にも役立てたい」としている。

ホームページは（http://www.ktr-mlit.go.jp/tonedamu/）。

「昭和の日」各地でイベント

訪れた人が当を懐かしんだ路地裏＝伊勢崎市緑町

今年から「昭和の日」の祝日となった二十九日、県内では「昭和」にちなんだイベントが伊勢崎市や昭和村などで開かれ、時代の移り変わりを実感した。

路地裏で工芸販売　伊勢崎
「村名と同じ」PR　昭和
流行の製品を展示　前橋

伊勢崎市緑町では、中心街の路地を活用したイベント「いせさきアーティストフェスタin路地裏」が行われた。

県内の工芸作家が路地に作品を並べて販売するイベント。緑町の路地が「昭和の遺産」であることから「昭和の日」に合わせて開いた。郷愛を呼び、懐路地裏に訪れた中高年らが当時に思いをはせていた。

昭和村では「昭和の日制定記念イベント」を開催。昭和の湯や村総合グラウンドの無料開放、もちつきなどに多くの村民が集まった。

村と同じ名前の祝日に、「村内でたくさんのいい思い出を作ってもらおう」と、赤城高原農業観光協会が企画した。特産のこんにゃくやキャベツ、レタスなどの春野菜が並ぶ農産物直売所「旬菜館」では、野だてや太鼓演奏なども行われた。

また、県庁昭和庁舎では、昭和期を振り返る展示「群馬と昭和」が行われ、雑誌や絹織物など流行した多彩な製品に訪れた人たちが懐かしそうに眺めていた。三十日まで。

多くの村民でにぎわった記念イベント＝昭和村の農産物直売所「旬菜館」

弔電の自粛について

自民党群馬県連県議団では、この度三十三名の県議会議員の総意により、「弔電」を自粛させていただくことを決議致しました。この決議は県議会議員の任期が始まる四月三十日より実施致します。

今回の弔電自粛は、お金のかからない政治を求める民意に応えるための第一歩と考えております。

県民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

平成十九年四月三十日

自由民主党群馬県支部連合会
県議団一同

●お問い合わせは
前橋 027-254-9944 本社広告局
高崎 027-362-4341 高崎支社

ニュースパークでできること
日刊新聞発祥の地・横浜にある日本新聞博物館（ニュースパーク）では、新聞の歴史と実在の新聞社の活動を楽しみながら知ることができます。

ニュースパークシアター（2階）で首都圏の歴史をめぐる歴史の旅を。
常設展示室（3階・5階）にあるタッチパネル式の情報端末で、新聞に関するクイズやゲームを楽しもう。
新聞製作工房（3階）で自分だけの新聞を作ってみよう。
新聞ライブラリー（4階）で新聞について詳しく調べよう。
喫茶の記念にショップでお買い物。疲れたらカフェで休憩を。（2階東側テラス）
NEWSPARK
日本新聞博物館
The Japan Newspaper Museum
〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター
Tel.045-641-2040 Fax.045-661-2029
http://www.pressnet.or.jp/newspark/
ニュースパーク利用案内
開館時 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（祝日・振替休日は翌日）、年末年始（12/29～1/4）
入館料 一般・大学生 400円 / 高・中・小・中学生 200円 / 小・中学生 無料
交通アクセス
●みなとみらい線「日本大通駅」徒歩1分（横浜情報文化センター正面出口）
●JR「根岸線」「桜木町駅」徒歩10分
●横浜市営バス「日本大通」停留所下車1分
●有料駐車場（横浜国際プラザ）徒歩2分

地域の物語　上州風　JOSHU FU　26　2007・春　上毛新聞社発行　定価840円（税込）
書店または上毛新聞取扱新聞販売店で。お問い合わせは出版局㈱027・254・9966、FAX027・254・9906へ。https://shop.raijin.com/

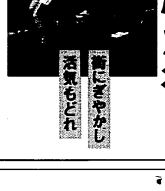
目くるめくあかの思い
紅板締め
かつて高崎市で製作された紅板締め

これが高崎の「色」。たかさき紅の会が復元
〈対談〉吉村晴子＋黒田亮子

ちょい変わりダネきものファッション
桐生・男のきもの学坊

東洋のフィレンツェはきものが似合う
〈座談〉島崎富司郎・阿部友雄・桜井英二・大沢隆・北川紘一郎

チンドン屋が行く



館・林・美・術・館を遊ぶ
キュレーターの逸品ガイド
〈秋果童子〉小彩放菴〈シロックマンフランソワ・ポンポン〉〈涙する人〉鶴岡政男〈鑑の上の野兎〉〈夜が少しづつ降りる〉金田実生〈長興山荘図〉小宝翠雲〈花苑〉脇田和〈ポジション〉ベン・ニコルソン〈ドルフィン〉ファイト・トム・シャノン〈1947〉コンバリー・フラナガン

イノシシとすみ分け
榛名山のシシ土手
「どうすみ分けるか」が歴史的な課題――鈴崎智子

指揮者もう一つの顔。
シシ垣は農民たちの万里の長城だった――能登健

シルクカントリーの系譜――富岡製糸場の工女たち

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。